

# ご近所の お医者さん

  
737  

富田林病院皮膚科部長 **中川浩一さん** 一富田林市



## ワクチンと免疫力

带状疱疹帯状疱疹という病名を、一度は耳にしたことがあるのではないでしょう。带状疱疹は、痛みを伴う皮膚病の代表で、特徴として必ず体の左右どちらかに小さな水ぶくれが現れ、顔・胸・背中・手足など全身に広がることもあります。

水ぶくれが带状に並んでいること

から带状疱疹という病名が付けられました。

痛みは個人差がありますが、夜眠れないほどに痛みを感じる方もいます。

皮膚症状が治まった後も「带状疱疹後

神経痛」として長く痛みが残るケースがあり、その際はペインクリニックでの神経ブロックなどの専門的な治療が必要になります。

带状疱疹は、子どもの頃にかかった水疱瘡水痘が治った後も、ウイルスは体内

# 带状疱疹、合併症に注意

す。1週間をめどに内服しますが、重症の場合は入院して点滴治療を必要とする場合もあります。また、合併症にも注意しなければなりません。顔面に発症した場合は視力低下を引き起こす「角膜ヘルペス」の可能性があるため眼科を、外陰部の場合は排尿障害の原因となることがあるため泌尿器科をあわせて受診することをお勧めします。

発症を抑えるためには、現在はワクチン接

の神経節に潜伏しているため、加齢、過労、ストレスなどで免疫力が低下した際に、「带状疱疹ウイルス」として再び活性化することで発症します。日本人の場合、50歳以上で発症することが多く、80歳までに3人に1人が経験すると言われています。なお、自分の体内のウイルスが再活性化する病気であるため、带状疱疹として他人にうつることはありません。

基本の治療は抗ウイルス薬の内服で

種が有効な手段です。ワクチンには1回接種の「生ワクチン」と、2回接種で予防効果が高い「不活化ワクチン」の2種類があります。これらのワクチンに対して、自治体による公的扶助が始まっています(例：大阪市では特定の年齢を対象に費用の一部を公費負担)。また、日ごろから食事に気をつける、規則正しい生活を心がけることで免疫力を高めるようにしていただきたいと思います。